

カリキュラム・マップ(ディプロマ・ポリシーに対する科目の位置付)

学部名	心理学部	学科名	心理学科
-----	------	-----	------

心理学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	社会で活躍するために必要な教養と、こころと行動の仕組みや働きに関する専門的な知識および実証的な研究法を理解・習得している。
DP2	思考・判断	こころと行動に関する諸問題に対して、適切な探求方法を選択・考案し、解決するための科学的で柔軟な思考力および判断力を習得している。
DP3	技術・行動	こころと行動の仕組みや働きを理解するための、科学的で客観的な研究方法および分析方法を習得し、そして、研究成果を論文としてまとめ、その内容についてのプレゼンテーションや他者と適切にコミュニケーションすることができる。
DP4	態度	こころと行動に関する様々な問題、あるいは特定の問題に興味・関心を持ち、自ら積極的に探求していくとともに、その成果を人間理解に活かし、自己向上や他者支援につなげていくことができる。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部局より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。			◎	○
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	大テーマ:大学生生活になれる、学びの習慣をつける 到達点:生活リズムができ、落ち着いて学べる環境をつくること。教員や先輩、留学生、同期入学生とのコミュニケーションはとれるようになること。				◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。		○	◎	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけさせることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように指導し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得させる。 本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	◎		○	
		情報処理Ⅱ	2	3	コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトおよびネットワークの基礎概念や社会情報学の基礎、セキュリティ保護の考え方等、いわゆるリベラルアーツとしての現代のコンピューターリテラシーを理解させることを到達目標とする。 情報処理Ⅱにより情報処理の基礎やオフィスアプリケーション操作を一通り理解した学生が、さらにコンピュータを活用した社会に適応する上で必要な概念と関連技術・用語について理解を深めるためのものである。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	◎			
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	この授業では高校までの主な文法事項は確実に理解でき、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。実力を今一度強固なものにするために文法的な復習、単語なども確認しますが、それと同時に聞き取りの実力、クラスによってはシャドーウィングなどを取り入れ、読むには実力的に問題なくても話せる力に近づけるよう指導します。そうすることで高校の英語とは一ランクが上の実力をつけるようにします。予習、復習を義務づけ実力がついたと実感できる程度に自分なりの意識を持ちながら授業に臨んでいただきたいと思っています。	◎			
		英語Ⅱ	2	1	この授業では英語もさることながら内容にも目を向けて大学生としてどのようなことに今後取り組んでいかなければならないのかを英語を通して考えていってもらいたいと思います。前期同様に高校までの主な文法事項は確実に理解出来、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。内容は健康問題から温暖化問題など、新聞やテレビでも扱われている内容が多く興味を湧かせると思います。是非ともニュースには常に興味を払っておいて下さい。授業内容の理解の手助けになると思います。	◎			
		英語Ⅲ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	◎			
英語Ⅳ		2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。	◎				

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	フランス語Ⅰ	2	1	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。	○			
		フランス語Ⅱ	2	1	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(基礎編)。フランス語を学び始めて半年経った学生が、半年後に「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルに到達するために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	○			
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)。フランス語技能検定5級を受験することができるレベルを到達目標とする。	○			
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・後篇)。「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルが到達目標である。そのために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。	○			
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	○			
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	○			
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	○			
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	○			
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	○			
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	○			
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	○			
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	○			
		日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎					
日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎					

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	応用日本語ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		応用日本語ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		応用日本語ⅡA	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎			
		応用日本語ⅡB	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。	◎			
		日本語研究ⅠA	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		日本語研究ⅠB	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。	◎			
		日本語研究ⅡA	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	◎			
日本語研究ⅡB	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。	◎					
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。	◎		○	
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。	◎			○
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。	◎			○
		音楽のたのしみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々の場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。	◎			○
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。	◎			○
		生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。	○			○

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合群	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	◎	○		
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	◎	○		
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	◎			○
	世界認識・自己理解	心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	◎	○		
		多文化理解	2	1~4	テーマ: 本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標: 様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	◎			○
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎			
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	○			
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	○			
		社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	◎	○		
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ: 世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	◎			
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を事例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	◎		○	
		環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	◎			○
	自然と数理	物理学	2	1~4	物理学の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	○			
		生物学	2	1~4	[テーマ]: 最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]: 人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生動物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双子児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	◎			○

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	○			
		人類生態学	2	1~4	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができる。	○			○
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を目ざす。	◎		△	
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	○			
		総合C群		1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。	○			○

カリキュラム・マップ(ディプロマ・ポリシーに対する科目の位置付)

学部名	心理学部	学科名	心理学科
-----	------	-----	------

心理学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	社会で活躍するために必要な教養と、こころと行動の仕組みや働きに関する専門的な知識および実証的な研究法を理解・修得している。
DP2	思考・判断	こころと行動に関する諸問題に対して、適切な探求方法を選択・考案し、解決するための科学的で柔軟な思考力および判断力を修得している。
DP3	技術・行動	こころと行動の仕組みや働きを理解するための、科学的で客観的な研究方法および分析方法を修得し、そして、研究成果を論文としてまとめ、その内容についてのプレゼンテーションや他者と適切にコミュニケーションすることができる。
DP4	態度	こころと行動に関する様々な問題、あるいは特定の問題に興味・関心を持ち、自ら積極的に探求していくとともに、その成果を人間理解に活かし、自己向上や他者支援につなげていくことができる。

※学科のDP達成のために、特に重要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
学部共通科目	心理学概論Ⅰ	2	1	春	テーマ:人間は自分を取り囲む環境から様々な情報を取り入れ、蓄積し、また多くの経験を積みながら適応を進めていく。そのためには、環境刺激の捉え方、対処の仕方が重要となる。また、人間は動物であると同時に非常に大きな個体差(個人差)をもつ生き物であり、その個体差が人間の行動に大きな影響を与えている。 到達目標:人間の行動(心の働き)には、動物に共通の内的な原動力と人間特有の個人差が反映されるということを本講を通して学ぶ。	◎	○	○	◎
	心理学概論Ⅱ	2	1	秋	テーマ:人間は自分を取り囲む環境から様々な情報を取り入れ、蓄積し、また多くの経験を積みながら適応を進めていく。そのためには、環境刺激の捉え方、対処の仕方が重要となる。また、人間は動物であると同時に非常に大きな個体差(個人差)をもつ生き物であり、その個体差が人間の行動に大きな影響を与えている。 到達目標:人間の行動(心の働き)には、動物に共通の内的な原動力と人間特有の個人差が反映されるということを本講を通して学ぶ。	◎	○	○	◎
	子どもの心理発達	2	1	秋	系統発生的な視点を取り入れながら、とくに子ども期に焦点を当てて、ヒト・人間の発達・発生をとらえることをテーマとし、動物としてのヒト発達の特殊性や共通性を知るとともに、発達心理学の幅広い知識と実証的態度を身につけることを到達目標とする。	◎	○		
学科専門基礎科目	心理学実験Ⅰ	1	2	春	・心的活動を客観的にとらえる実験的方法の修得 実験計画(変数の設定,条件操作の方法等)の立て方および実験機器の操作法を修得する。 ・実験レポート作成方法の修得 得られた量的,質的データを統計的に処理することができるとともに,行なった実験の目的,方法,結果,そしてそれについての考察をレポートにまとめることができる。	◎	○	◎	○
	心理学実験Ⅱ	1	2	秋	・心的活動を客観的にとらえる実験的方法の修得 実験計画(変数の設定,条件操作の方法等)の立て方および実験機器の操作法を修得する。 ・実験レポート作成方法の修得 得られた量的,質的データを統計的に処理することができるとともに,行なった実験の目的,方法,結果,そしてそれについての考察をレポートにまとめることができる。	◎	○	◎	○
	心理学研究法Ⅰ	2	2	春	心理学の研究に用いる主要な方法を学ぶことがテーマである。心理学の研究論文に用いられる方法が理解でき、実際に心理学研究法に沿って研究が推進できるよう、講義内容の6割以上の理解度をもって到達目標とする。	◎	◎	◎	◎
	心理学研究法Ⅱ	2	2	秋	テーマ:臨床心理学的研究法を学ぶ。 到達目標:支援・介入的実践活動の理論的基盤である臨床心理学的研究の実際と手法を学び、卒論レベルの研究において適用可能な能力を身につける。	○	○	◎	○
	心理学統計法Ⅰ	2	2	春	心理学(行動科学)における重要なテーマの1つである,数量的データの取り扱いについての知識を得ることを目標とする。	○	○	◎	○
	心理学統計法Ⅱ	2	2	秋	心理学(行動科学)における重要なテーマの1つである,数量的データの取り扱いについての知識を得ることを目標とする。	○	○	◎	○
	医学概論Ⅰ	2	2	春	社会医学を中心に「医学」の包括的理解を目標とする。合わせて、自分自身および家族の健康管理の重要性と健康管理に関する知識の獲得も目標とする。	◎	△		△
	医学概論Ⅱ	2	2	秋	社会医学を中心に「医学」の包括的理解を目標とする。合わせて、自分自身および家族の健康管理の重要性と健康管理に関する知識の獲得も目標とする。	◎	△		△
	人体の構造と機能及び疾病	2	1	春	関連する生理学も含め、ヒトの身体構造の包括的な理解を目標とする。	○	△		
	心理的アセスメント	2	2	秋	心理検査を中心に、クライアントの診断や見立て、適切な援助方法の選択、援助過程の評価等のために用いられる臨床心理アセスメントの方法を理解する。	○	○	◎	○
	精神疾患とその治療	2	2	春	1 精神医学の基礎的事項を理解する。 2 代表的な精神障害について理解する。 3 治療における心理(精神)療法の重要性を理解する。 4 精神医学の歴史的な背景を理解する。 5 精神医療関連の法律の概要を理解する、	◎			
	生理学	2	2	春	正常な生体の機能に関する知識を得ることにより、心理学を学ぶ上で不可欠である身体についての理解を深める。	○			○
	心理学史	2	2	秋	心理学は19Cに哲学から独立し、今日、人間科学、行動科学の中核となりつつある。その歴史をつくりあげてきた心理学者を中心に、その人間観、方法論、認識論などがテーマとなる。これらについて、講義内容の6割以上の理解度に達することを目標とする。	◎	○	○	○
	心理尺度構成法Ⅰ	1	3	春	態度等の主観的データを客観性、再現性のある手法で得るための測定法、得られた測定データに対する処理方法を体得する。			◎	
	心理尺度構成法Ⅱ	1	3	秋	態度等の心理尺度の作成を通して、その原理と手続きを習得する。			◎	
学科専門応用科目	感情・人格心理学Ⅰ	2	1	春	身近なトピックスを通して、「性格」「人格」という心理学概念の利点と欠点について理解する。	◎	○		○
	感情・人格心理学Ⅱ	2	2	春	「感情」はいかに生じ、我々の心の働きや行動にどのような影響を与えるのかを理解する。	◎			
	神経・生理心理学Ⅰ	2	1	秋	心理学と関係の深い神経系、神経系を保護する骨や筋、および神経系と関係が深い内分泌系の構造と機能の理解を目標とする。	◎	△		
	神経・生理心理学Ⅱ	2	3	秋	テーマ:こころと生理学的機能との関係性。 到達目標:こころの働きとそれに伴う生理的な変化、特に大脳活動との関係性について理解する。	◎	◎	○	○
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	1	春	授業のテーマ及び到達目標:人と人の関係に基づく意識・行動について社会的枠組みから理解することをテーマとする。それらについて六割以上の理解をもって到達水準とする。	◎	○	○	○
	社会・集団家族心理学Ⅱ	2	3	春	家族システムや対人間の相互作用から現象を捉える視点を養う。	◎	○		○

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
学科専門応用科目	発達心理学	2	1	春	心理学の幅広い知識と実証的態度を身につけるとともに、臨床心理学の基本となる人間の発達の見方を理解し、臨床場面で応用するための基礎的な知識を身に付けることを到達目標とする。	◎	○		○
	社会福祉原論	2	1	秋	テーマ: 社会福祉思想の軌跡 到達目標: 社会福祉の歴史を学ぶことで、同時に社会福祉自体の動態的法則性の把握に寄与する。	◎			○
	健康・医療心理学	2	1	秋	人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討するのがテーマであり、これらについて6割以上理解することを到達目標とする。	◎	○	○	○
	知覚・認知心理学	2	2	秋	環境に適応するために環境を知る働きを「知覚、認知」と呼ぶ。我々は、刺激をそのまま捉えているのではなく、一部を選択的に取り込み、それを脳内で再構成しているため、客観的に存在する環境と心理的に感じられた環境との間にはズレが生じることがある。人間が環境をどのように見たり聴いたりしているかについて、伝統的、情報处理的、あるいは神経科学的方法を紹介しながら学習する。	◎	◎	○	○
	学習・言語心理学	2	2	春	心理学では、「学習とは、活動や訓練あるいは観察の結果として生じた永続的な行動の変容である」と考え、学習心理学には、「人はなぜ行動するのか」というテーマのもとに、行動と認知の形成メカニズムを説明するための数多くの理論が存在する。 学習理論・行動理論のなかで代表的な理論を理解することを目標とする。	○	◎		○
	臨床心理学概論	2	2	秋	臨床心理学とは、どのような学問であるかについて、包括的な理解をしてもうことが、この授業のテーマである。 到達目標は、臨床心理学についての基礎的な内容を学習し、応用に向けた知識と、実践的な態度を身につけることである。	◎	○		○
	心理学的支援法	2	2	春	心理学的支援法である療法にはさまざまな理論が展開されているが、代表的ないくつかを取り上げ、その基本概念や方法についての初歩的知識の学習を目的とする。後に開講される各心理療法についての導入として位置づけられる。	○	○	○	◎
	司法・犯罪心理学	2	2	秋集中	犯罪や非行の実態、犯罪者及び被害者の心的過程や状況を体系的に考察していく。 また、犯罪の未然防止や犯罪被害者への支援の取り組みについて知見を養っていく。	◎			○
	産業・組織心理学	2	2	春集中	産業心理学の研究において得られた理論や成果を理解し考察を深めるとともに、個人と組織間の相互作用の中で生まれる「こころの働き」に重点をおき、人々が幸福に働くため必要な知見を養うことを到達目標とする。	◎			○
	生涯発達心理学	2	2	秋	生涯発達の視点で胎児期から老年期にわたって、発達の特徴を概観し、心身の発達の特徴とプロセス、発達に影響を与える諸要因を理解する。特に、成人期以降の発達の課題を基に、様々な発達段階での心理的問題について考える力を修得することを目標とする。		◎		○
	心理演習Ⅰ(面接)	1	2	秋	話の聞き方をはじめ、情報収集や話の方向づけについて、カウンセリングに求められる知識とスキルの基礎を修得する。	△	○		◎
	心理演習Ⅱ(面接)	1	3	春	話の聞き方や情報収集の技法、話の方向づけなど、カウンセリングに求められる知識とスキルの基礎をより強固なものにする。	△	○		◎
	心理演習Ⅲ(検査)	1	3	春	臨床心理アセスメントの有効な手段の一つとなっている基本的な心理検査の実習がテーマであり、基礎的なスキルの習得とともに、最終的にはクライアントの支援の視点に立って支援方法の選択や支援過程の評価を考えられるようになることが到達目標である。		○	◎	○
	心理演習Ⅳ(検査)	1	3	秋	投影法を中心とした心理検査の実習がテーマであり、現場で実際に使えるコミュニケーションスキルと心理検査技術を確実に身につけることが到達目標である。	◎	○	○	○
	障害者(児)心理学	2	3	春	「障害」とは何か、その種類、症状、診断基準、支援方法等の知識を習得するとともに、実際の映像を視聴することによって理解を深めることを目指す。	○	○	◎	◎
	福祉心理学	2	3	秋	様々な福祉的ニーズを有する人々の心と適応の問題についての理解とその対応について学ぶ。	◎			△
	教育・学校心理学	2	3	春	学校教育場面における問題の現状を把握するとともに、その捉え方や対処法について習得する。	○	◎		○
	比較心理学	2	3	春	様々な動物の(認知)行動についての研究法を知り、ヒトに特異的と考えられている能力を他の動物との比較の中で捕らえ直す。	◎	○		
	コミュニティ心理学	2	3	秋集中	1. コミュニティ心理学の研究内容や理論的背景、研究法を理解する。 2. コミュニティへの臨床心理学的地域支援の実際や介入法を、事例も含めて学ぶことで、コミュニティ感覚をもった心理専門職としての資質を高める	○			◎
	経営心理学	2	3	秋	「経営」という観念・行為に含まれる生産性、マーケティング、サービス、就労環境、組織運営と管理等々、人vs人、人 vs 組織 の諸関係を心理学的観点から総合的に捉え直す。到達目標は経営的課題に対する心理学的視点からの理解と問題解決能力が可能となる事である。	○	◎		
家庭支援論	2	3	春	現代の家族や家庭のあり方、家族を取り巻く環境、そして家庭支援に関わる知識を修得する。	◎	△			
臨床神経学	2	3	秋	この授業の目的は、神経診断学すなわち神経疾患の検査法の理解と習得、主要な脳神経外科的疾患である神経外傷、脳血管性疾患、脳腫瘍の臨床像の理解である。心の問題を扱うには、その入れ物である脳神経系の状態の把握のしかたや心に強く影響を与える脳神経疾患の理解は必須である。	◎	○		○	
神経診断学	2	3	春	この授業の目的は、神経診断学すなわち神経疾患の検査法の理解と習得、主要な脳神経外科的疾患である神経外傷、脳血管性疾患、脳腫瘍の臨床像の理解である。心の問題を扱うには、その入れ物である脳神経系の状態の把握のしかたや心に強く影響を与える脳神経疾患の理解は必須である。	◎	○		○	
臨床の倫理	2	3	春	臨床現場は治療者と患者、それらを取り巻く人間関係の上に成り立つ営みでもあるため、守秘義務、インフォームドコンセント等の治療者の倫理が問われる。適切な医療、援助が行われるための患者理解のあり方、病める者の一般的な心理反応、入院患者の心理等について学習し、それらに対する対応を理解・修得する。医療を基礎として講義・討論・考察を行うが、これらはほとんどが心理臨床でも共通の問題である。		△		◎	
教職関連科目	日本史	2	2	秋	日本の歴史の古代から近世までを講義する。 到達目標: 教職の教科に関する科目の一つであるので、採用試験に出題される問題に対応できるレベルを到達目標とする。前近代の日本の歴史の大きな流れと時代の変化に着目してすすめていく。	◎			
	東洋史	2	2	秋	テーマと到達目標 前近代から現代の中国を中心とした東洋の歴史を講義する。 教職の教科に関する科目の一つであるので、採用試験に出題される問題に対応できるレベルを到達目標とする。歴史の大きな流れをグローバルに把握することが重要である。	◎			

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
教職 関連 科目	西洋史	2	2	春	テーマ:古代ギリシア世界～産業革命に至る西洋の歴史について 到達目標:教員免許資格取得に関する科目なので、教員採用試験の問題に対処し得るレベルへの到達を目標とする。西洋の歴史の流れを他の世界との関係に十分留意して理解していく。	◎			
	地理学概論	2	2	秋	将来、学校現場において社会科地理的分野の授業の実践ができる教員の養成がテーマであり、中学校社会科教員に必要な地理学の基礎的知識及び実践的指導力の育成を目的とし、教員採用試験に対応できるレベルをその到達目標とする。	◎			
	地誌学	2	3	春	地誌学の概要と世界主要地域の地誌を学ぶ。世界の様々な地域における特徴と諸問題を総合的に把握するとともに、中学校社会科教員として教授できうる知識・技能を身に付け、グローバルな視点により地理的事象を分析・探求できるようになることが目標である。	◎			
	法学	2	1	秋	法学は社会人として自己の完成を目指す上で有効に役立てることができる必要不可欠な教科です。 社会生活に必要な法的なものの考え方を理解することを到達目標とします	◎			
	政治学	2	1	春	大学で政治の諸問題を学ぶ意義は、それを単なる評論ではなく、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。この講義を受講すれば、大衆民主主義における政治的な出来事や理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が習得できるものとなる。	◎			
	社会科・地歴科教育法Ⅰ	2	2	春	社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。 到達目標は、授業計画・学習指導案の作成、および、模擬授業ができるようになることである。	◎			
	社会科・地歴科教育法Ⅱ	2	2	秋	社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。 到達目標は、授業計画・学習指導案の作成、および、模擬授業ができるようになることである。	◎			
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	3	春	社会事象に関心を持ち、的確な判断や行動ができる生徒を育てるため、自らも深く思考し判断できるとともに、効果的な授業の創造、適切な評価ができる実践力に優れた教師を目指す。 到達目標は、授業計画・学習指導案の作成、および、模擬授業ができるようになることである。	◎			
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	3	秋	社会事象に関心を持ち、的確な判断や行動ができる生徒を育てるため、自らも深く思考し判断できるとともに、効果的な授業の創造、適切な評価ができる実践力に優れた教師を目指す。 到達目標は、授業計画・学習指導案の作成、および、模擬授業ができるようになることである。	◎			
	教育原論	2	2	秋	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に付ける 【到達目標】 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育(学校)をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度(学校など)の役割について自身の意見を持つ	◎			
	教職論	2	1	春	教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	◎			○
	教育行政学	2	2	春	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 1. 教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する 2. 学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する 3. 学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する 4. 子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する 5. 現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する 6. 子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようになる	◎			
	教育心理学	2	2	春	「教育実践に生かす学習と発達の心理学」をテーマとし、人間の学習活動に影響を与える基本的な要因について理解し、その知見が教育実践の場できかに活用されるかについて考えることができることを目標とする。	◎	○		○
特別支援教育	1	2	春	特別支援教育に携わる上で必要となる理念・制度を理解し、障害の理解と指導方法に関する知識が備わっている。	◎				
教育課程論	1	2	春	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する。また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。	◎				





授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
卒業論文	2	4	秋	テーマは「心理学研究の実施と論文の作成」であり、到達目標は、科学的な研究法に基づいた実験的研究の実施と、卒業論文の作成である。	○	○	◎	○